

グローバル化した土地収奪 とアグリビジネスの拡大



GRAIN, February 2016

グローバル化した土地収奪とは？

我々の定義:

- ある企業や地域による外国での主に輸出向け基礎食品生産の為の長期間(通例30年間－99年間)にわたる大規模(10,000Ha 以上)な土地の所有(借用、コンセッション、全面買収等)。



この問題の起源(2007,8年)

食料危機:外国での食料生産は現在、輸入食料に依存している国々の政府にとって新たな食料供給の国家戦略として見られるようになった。



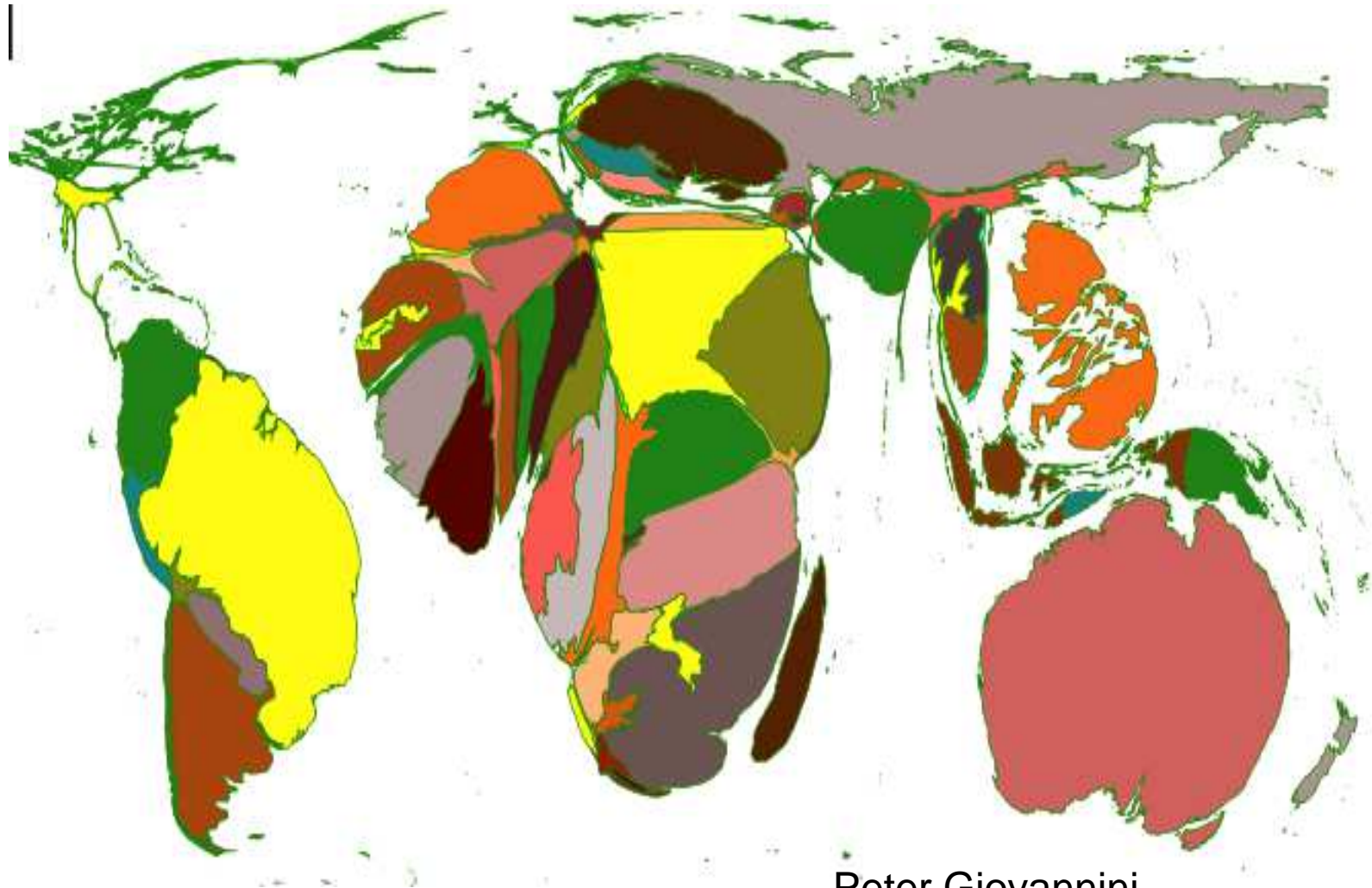
経済危機:農地が新たな投資先として金融業界から注目される様になった。



対象地域の規模

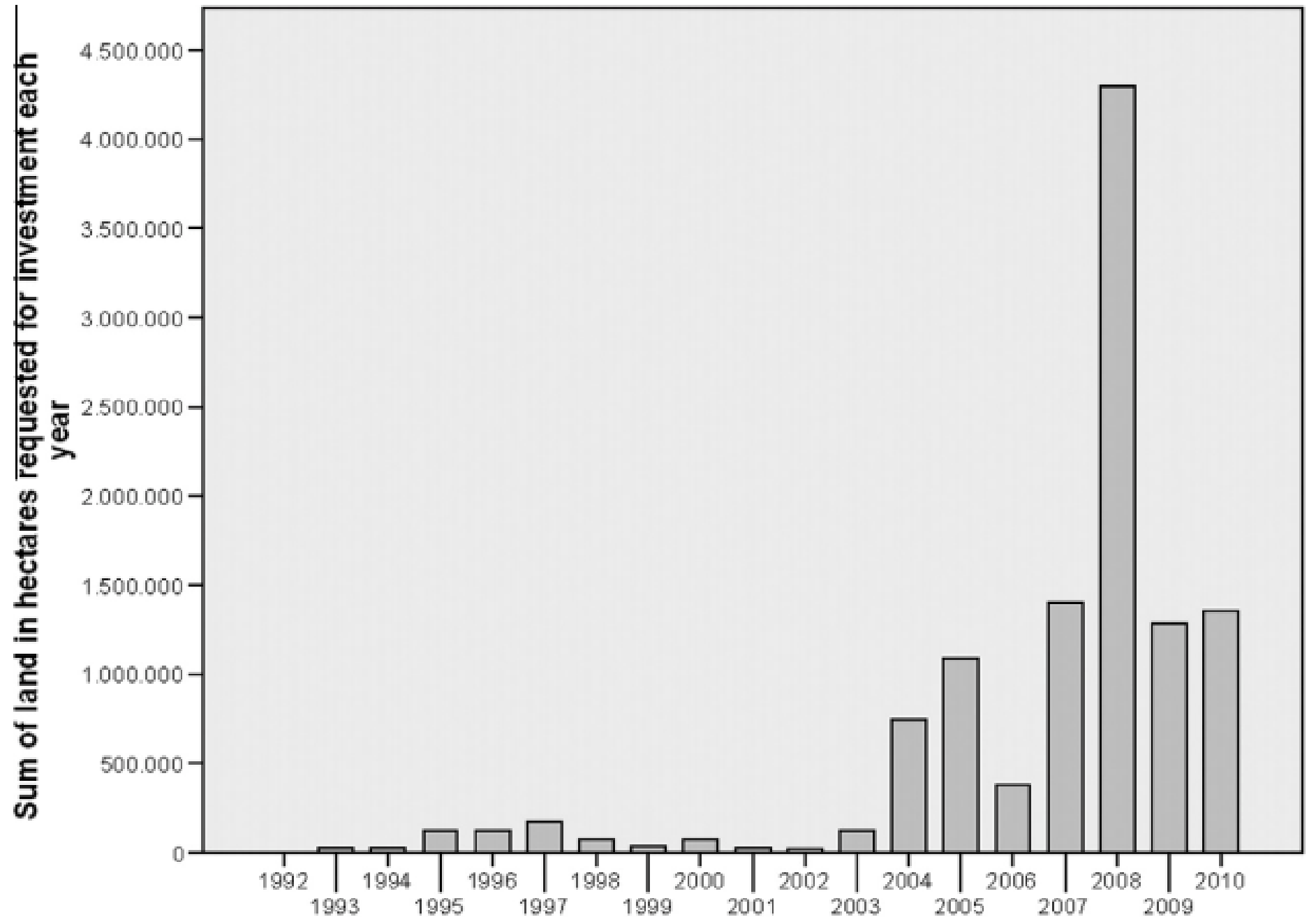
GRAIN: 3,000万ヘクタール

Land Matrix: 2,670万ヘクタール (世界の農耕地の2%)



Peter Giovannini

エチオピアでの土地収奪の急増



Baumgartner, 2012

今日のグローバル化した土地収奪

多くの投資失敗例にも関わらず増え続ける契約数



インド人ビジネスマンであるC. Sivasankaran氏は2010年にアブラヤシ農園を所有する企業への投資を開始した後、アジア、アフリカ、南米の合計750,000ヘクタール以上にも及ぶ農地を管理するため、それぞれの地域へ子会社を設立し、体制を整えていった。しかし2014年、Sivasankaran氏はセーシエルの最高裁判所より破産を宣告された。

ウォール街の投資家であるフィリップ・ヘイルバーグ氏は2009年に当時紛争下であったスーダンにおいて南スーダン人の軍事最高責任者であるマティプ氏と、フィリップ氏の所有する企業であるJarch Management社へ400,000ヘクタールに及ぶ農地の長期借地とその管理をマティプ氏に一任する契約を結び、物議を醸した。しかし近年のレポートでは南スーダン政府はこの契約の有効性を否定している。



未だ大きな要因となる食料安全保障...



アブダビのJenaan Investment社がスーダンのナイル川周辺にあるヌビア帯水層に所有する55,000ヘクタールの農園。

...しかしこれらの目的・要因のために拡大し続けるアグリビジネス

- 企業の海外産品へのアクセスや貿易ルート確保への支援。
- 食品業界の海外市場の拡大。
- アグリビジネスが既に根付いている地域での市場の飽和(ブラジル、ウクライナ、オーストラリア等)



オーストラリアのオード川沿いにある灌漑農園に10億オーストラリアドルを投資した中国人ビジネスマンJian Zhong Yin氏

フロンティアへのアグリビジネスの拡大

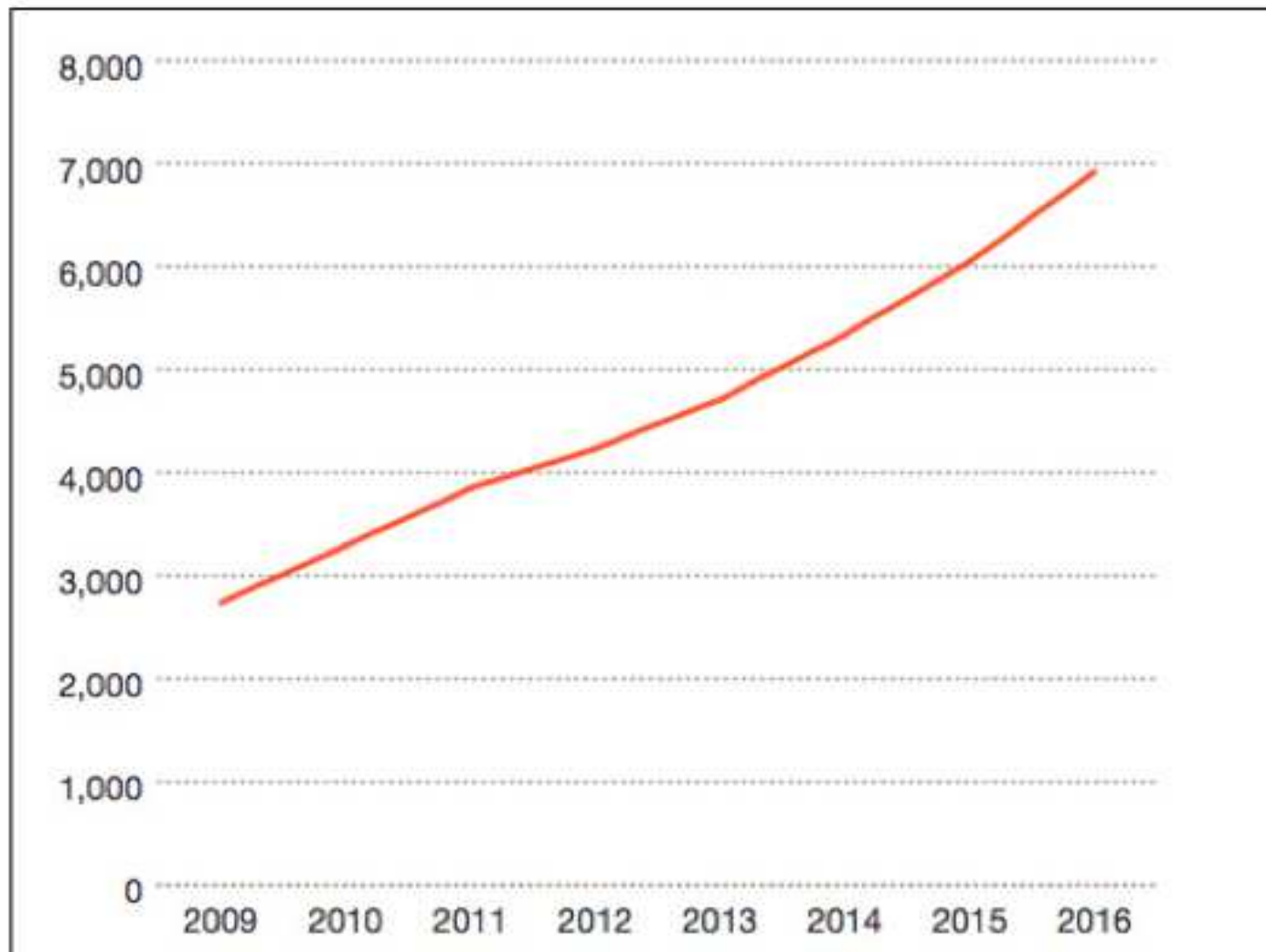
- 北半球での市場飽和と成長市場へのビジネス拡大
- スーパーマーケットとローカルマーケットの競争(グラフ)
- 加工食品、ファーストフードの増加
- 金融経済の流入。

=

- 低コストでの食料品の需要と供給の増加(グラフ)
- 新たなフロンティアへ商業品生産の促進
- 既存の地域への過剰生産抑制（農園、契約生産）

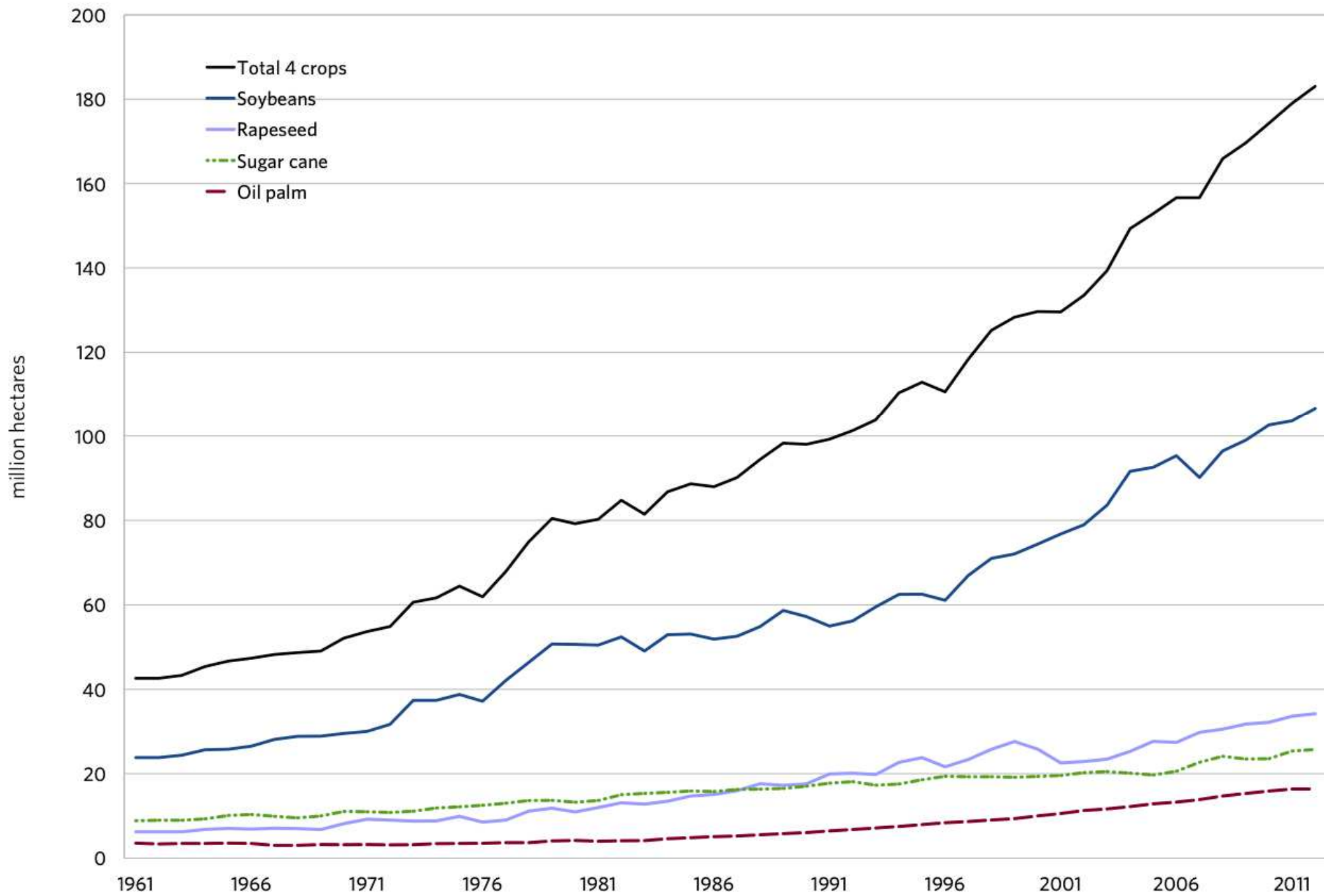


Retail sales of food in Asia and Australasia (in US\$ billion)



Source: Economic Intelligence Unit

The global encroachment of the industrial crops



金融部門

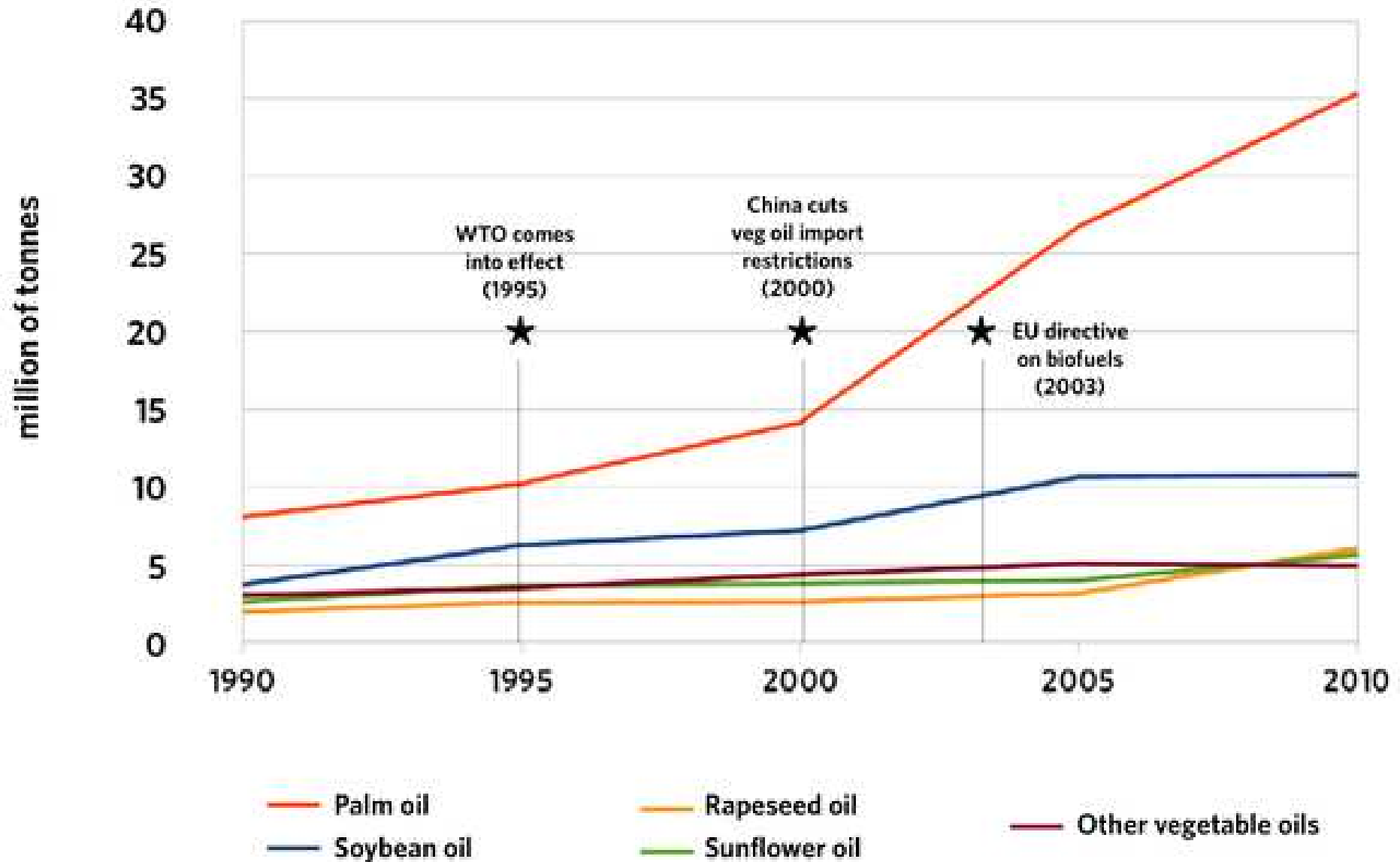


- 年金基金の役割の拡大
- 金融機関の発展
- 海外金融

油ヤシ

低価格な植物油への世界的な需要の増加

Vegetable oil exports

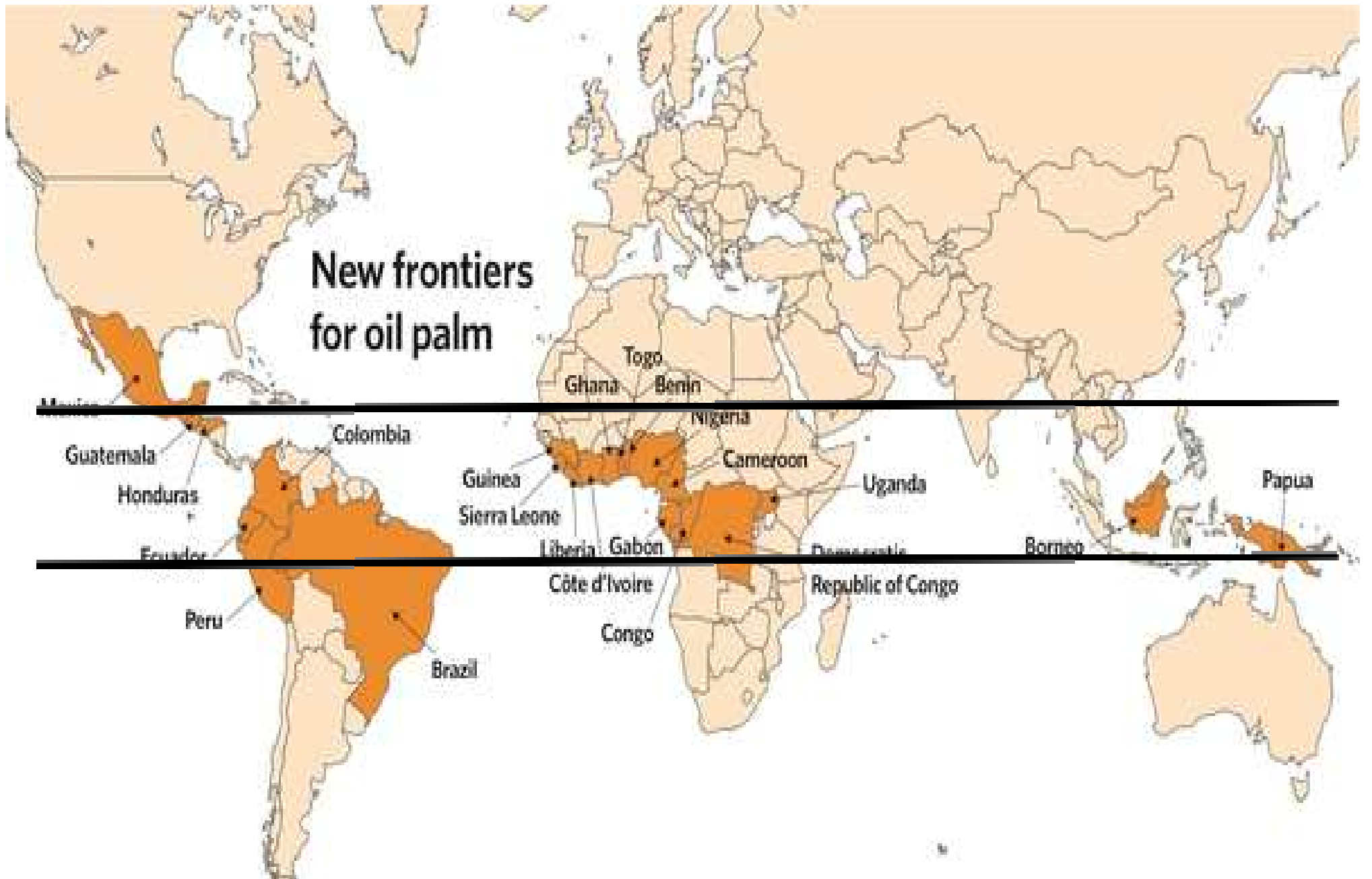




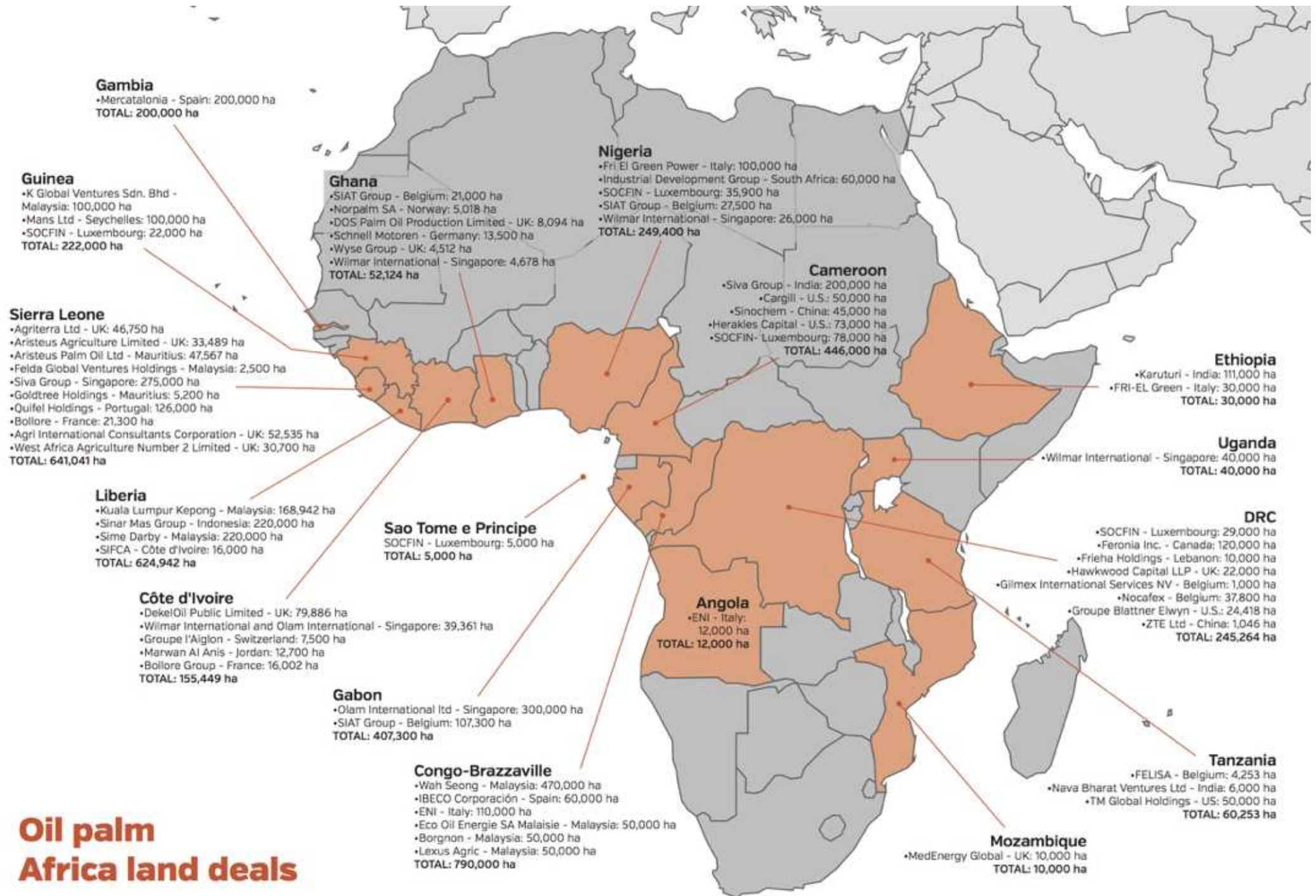
Logging

Speculation
Illicit finance





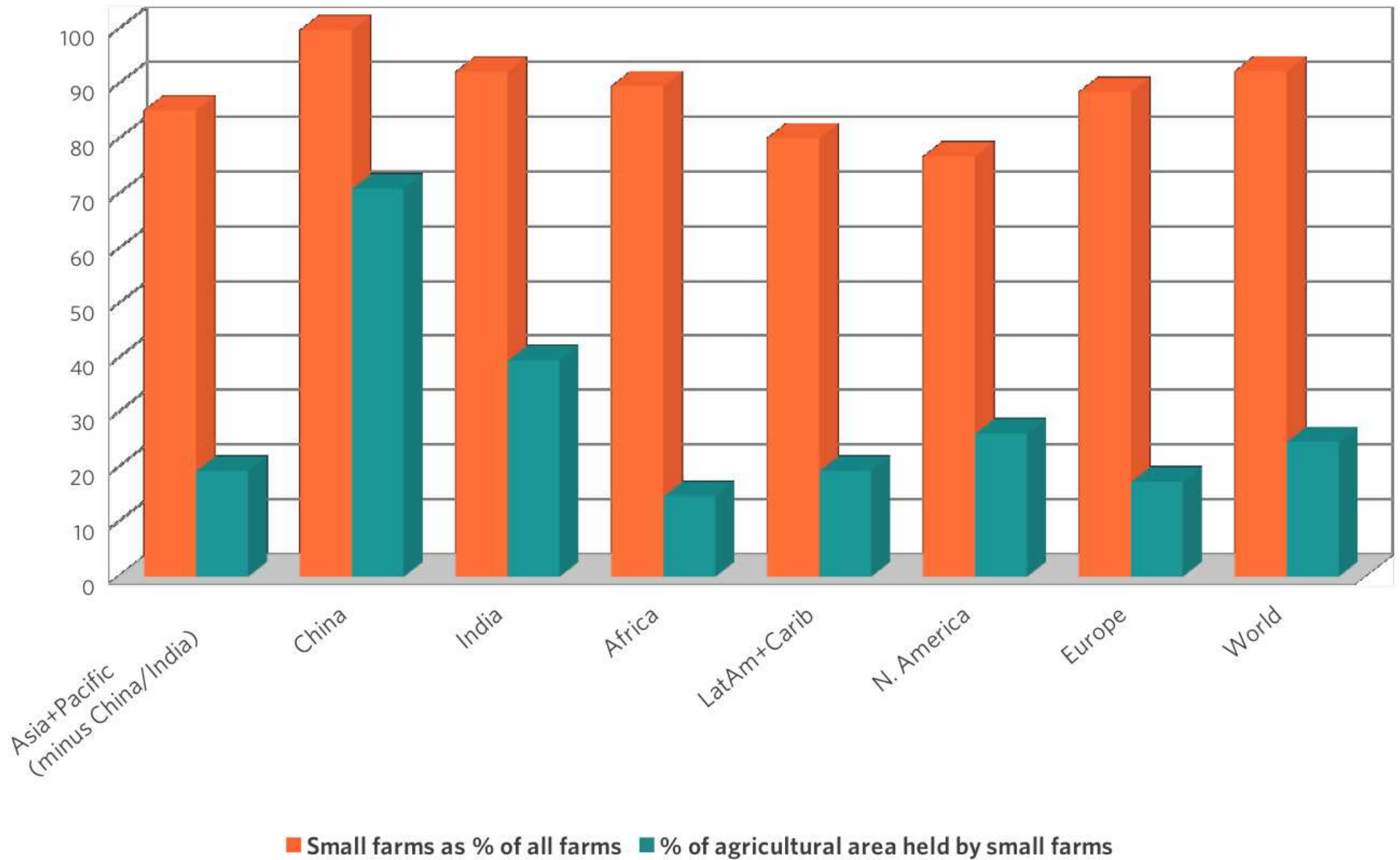
Oil palm Africa land deals



影響

- 土地紛争の勃発
 - 例. インドネシア - 油ヤシ・プランテーションを進める企業と地域住民との間で731の土地紛争が2015年に発生。
- 弾圧
 - 2016年、月平均16人もの土地の権利を主張していた人々が殺害される。
- 収奪（“農業改革”の名の下）
 - 小農 = 世界の農家の90%は小農であるが、その小農は世界の25%以下の農地しか所有できていない。(グラフ)
- 水へのアクセスの減少
- 汚染
- 食料不安
 - 輸出向け農業への移行
 - 小規模農家が世界の食料の殆どを生産しており、大規模農業よりも高い生産性を持っている。
- 女性
 - 世界の農民の大多数は女性である。
- 汚職

The vast majority of the world's farms are small But they only hold 24.7% of the world's farmland



そして何が起こったか?

- 地域、国家、国際レベルでの連合。
- 汚職、土地収奪、違法行為の摘発、曝露。
- 外国政府や開発基金に対する圧力
- 連合での反企業運動
- 様々な法的試み



...しかし

- 新たな土地収奪のかたち (契約生産)
- “合理的な” 土地の取得
- 大規模開発プロジェクト
- 弾圧と支配



食の主権

伝統的生産と地元作物



グローバル化したアグリビジネス における日本企業

日本のアグリビジネス

ブラジル農地での開発権利を取得

Mitsubishi
Agrex do Brasil
70,000ヘクタール



Mitsui & Co. Ltd
SLC-MIT
Empreendimentos
Agrícolas S.A. / Pingu
87,000ヘクタール

State of Mato Grosso
Operated by SLC-MIT: 18,000ha
(Start in 2014)



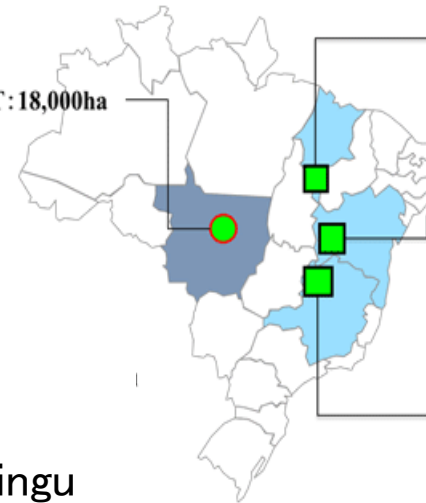
State of Maranhão
Lease to SLC: 5,000ha



State of Bahia
Operated by Xingu: 35,000ha
Operated by SLC-MIT: 22,000ha



State of Minas Gerais
Operated by Xingu: 7,000ha



Sojitz Corporation
Contagalo General
Grains SA
150,000ヘクタール



Zen-Noh Grain Corp.
Amaggi and Louis Dreyfus Co
LD - 340,000ヘクタール
Amaggi- 215,000ヘクタール(及び
丸紅との事業提携)

アグリビジネスにおける提携



双日 & Indofood (Salim)



三菱 & Olam



伊藤忠 & CITIC & CP
Group

...そしてその他にもマーケット拡大や外国での商業製品生産を狙っている数多のベンチャー企業

インド企業との提携例:

- 不二製油と3F Industries (ガボンに40,000ヘクタール, スリナムに40,000ヘクタール)
- J-オイルミルズ, 豊田通商とRuchi Soya (エチオピアに25,000ヘクタール)

政府による支援



マトピバ/PRODECER

グローバルフードバリューチェーン

プロサバンナ/G7 ニューアライアンス